

## 令和7年度 玉出中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

### 1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3年	学校	82	49	40	8.4	14.3
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	482
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

### 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3年	学校	73	60.4	49.1	49.8	40.2	58.6	8.6	7.1	14.5	14.0	7.3
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.2	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

## 令和7年度 玉出中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

### 調査結果から

#### 【成果と課題】

##### ○全国学力・学習状況調査結果

〈国語〉 全国と比較して、「読むこと」の領域については、0.3pt上回る結果であった。それに対して、「書くこと」の領域では、-9.6ptとなり、「書くこと」の領域で課題を残すこととなった。全体としては、-5.3ptと全国平均に近づいてきているが、若干下回る結果となった。

〈数学〉 全国と比較して、「関数」の領域では、-5.3ptと若干下回る状況であった。それに対して、「図形」の領域で-9.6pt、「数と式」では-9.1ptと大きく下回る結果となり、課題が見える結果となった。全体としては、-8.3ptで今後の頑張りが期待される結果であった。

〈理科〉 全国のIRTスコアが503ptであるのに対して、大阪市が489pt、本校が482ptで、全国と比較して21ptの差であった。全国比は95.8、対大阪市比は98.6であり、今後の奮起が期待される。

##### ○中学生チャレンジテスト(3年生)

〈成果〉 英語科においては、大阪府平均は5.4pt上回る結果であった。その他の教科では、大阪府平均には惜しくも及ばなかったものの、日ごろの努力の成果が表れる結果となった。

〈課題〉 各教科ともに、学習における基礎基本の徹底を図るとともに、子どもたちの生活の質を向上させることを目的の一つとして、授業等の学習活動を続けていきたい。ICT機器については、多くの授業で学習道具の一つとして根付いており、調べ学習やまとめ作業等に活用できている。

#### 【今後に向けて】

○各教科とも、授業には落ち着いて参加しているが、さらに分かるようになりたいという意欲をより前向きに出せるよう働きかけを続けていきたい。

○生徒が学習に興味をもつように、学習内容と日常生活との関連を具体的に示すように工夫していきたい。

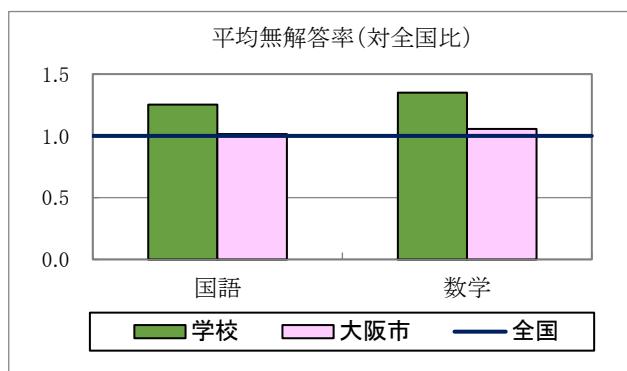
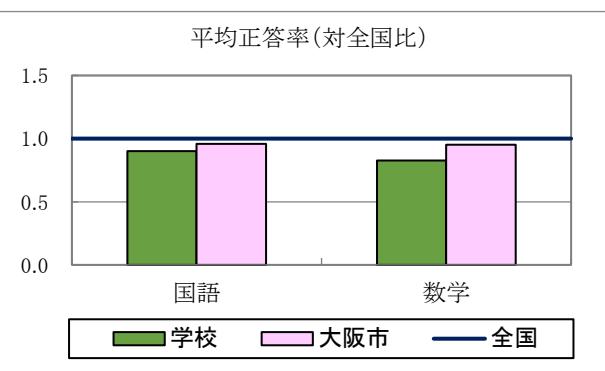
令和7年度 玉出中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【全 体】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	49	40
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

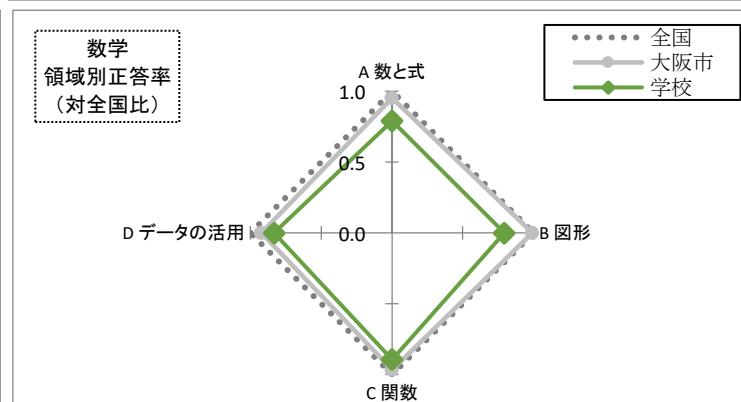
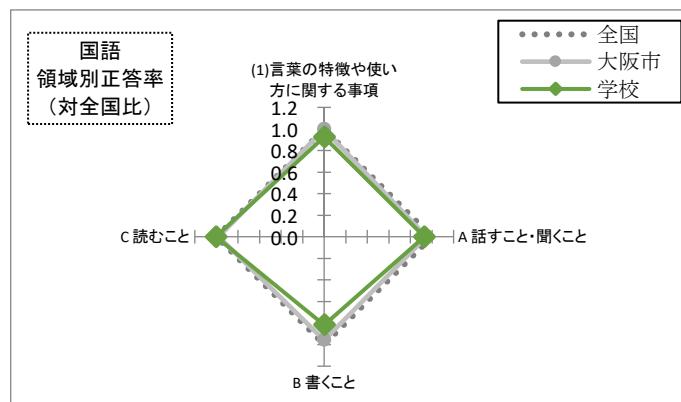
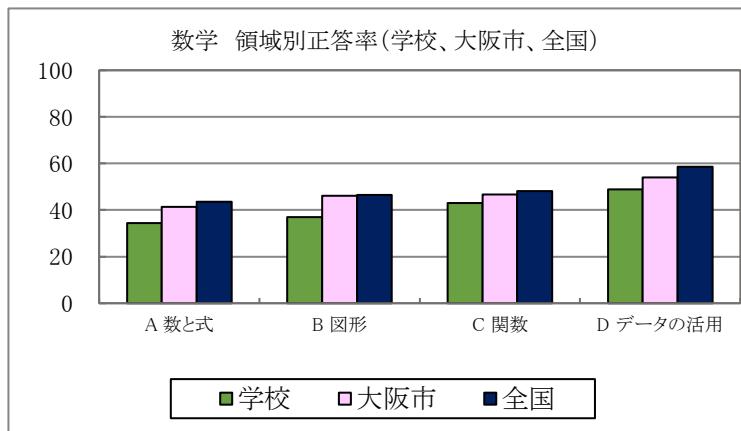
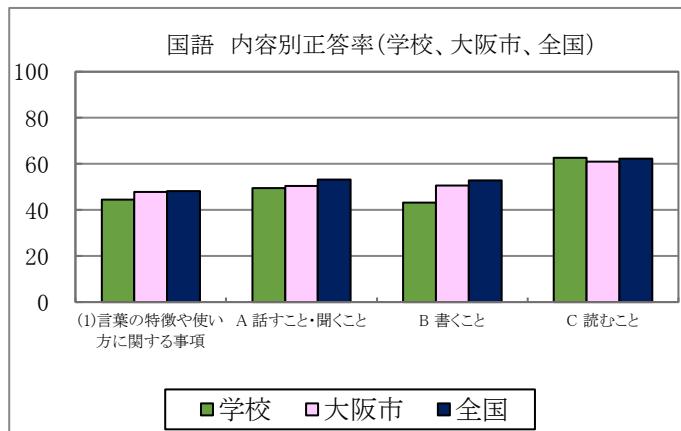
平均無解答率(%)	
国語	数学
8.4	14.3
6.8	11.2
6.7	10.6



【国 語】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	44.5	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	49.4	50.4	53.2
B 書くこと	5	43.2	50.6	52.8
C 読むこと	3	62.6	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	34.4	41.4	43.5
B 図形	4	36.9	46.1	46.5
C 関数	3	43.1	46.6	48.2
D データの活用	3	48.8	54.0	58.6

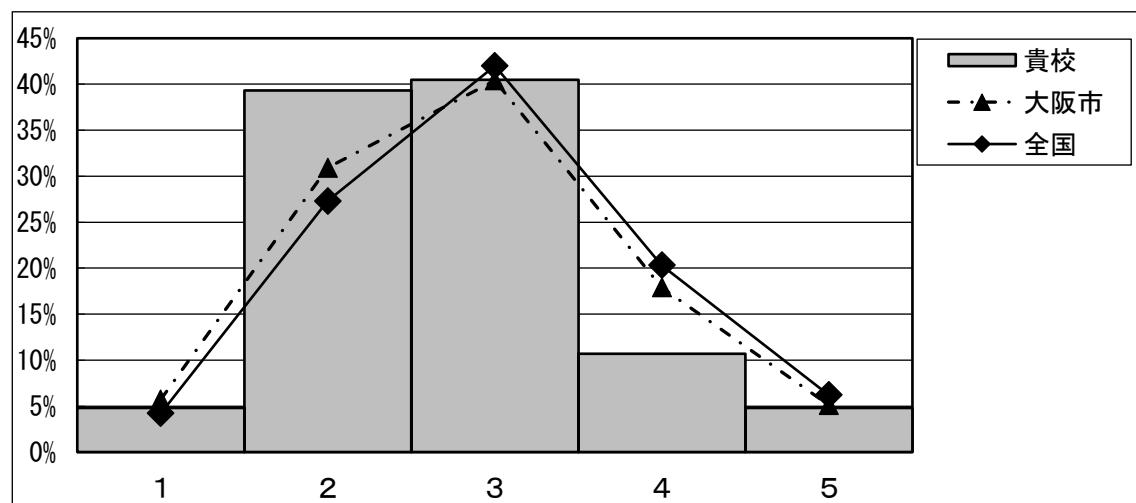
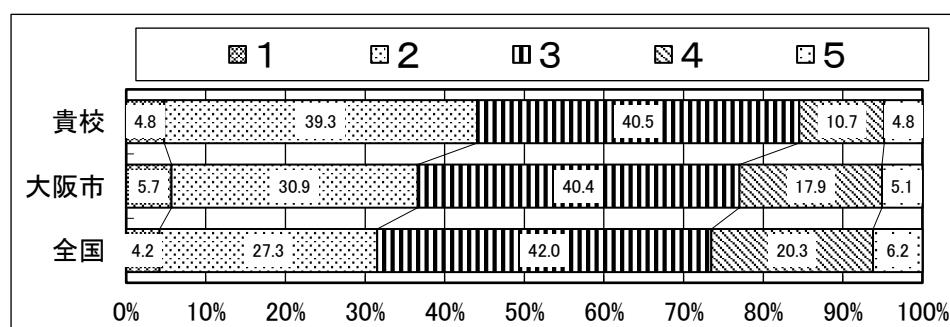


令和7年度 玉出中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	482
大阪市	489
全国	503



# 令和7年度 玉出中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

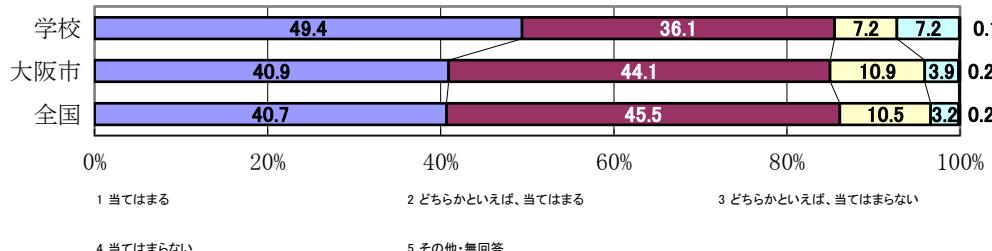
## 生徒質問より

■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

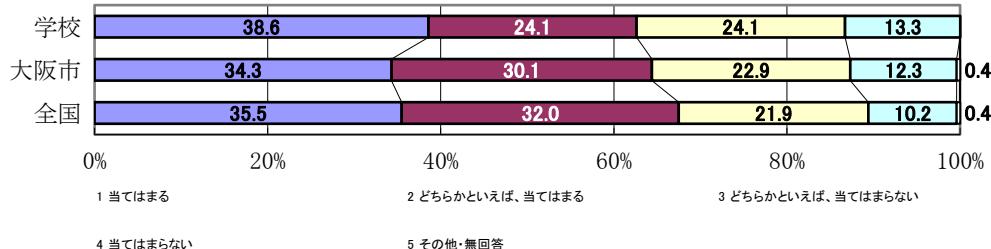
5

自分には、よいところがあると思いますか



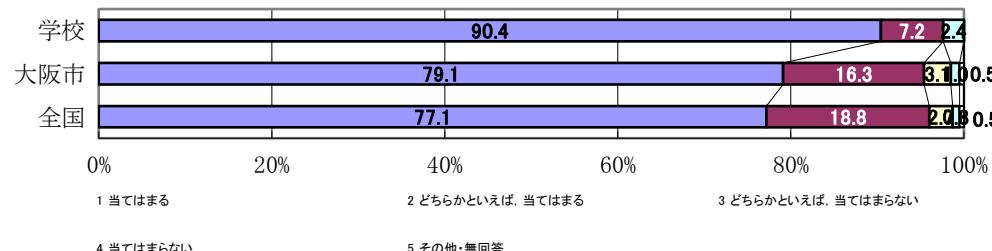
7

将来の夢や目標を持っていますか



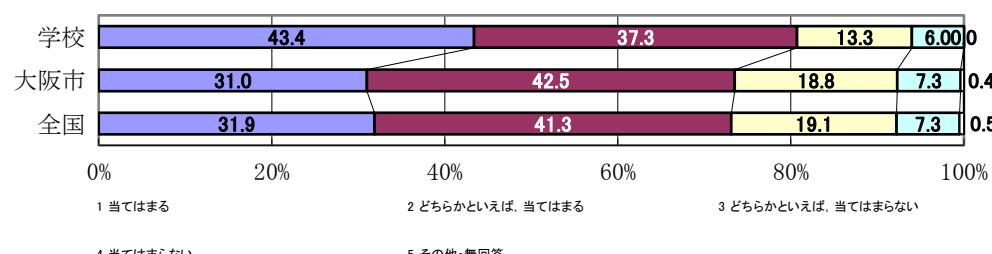
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



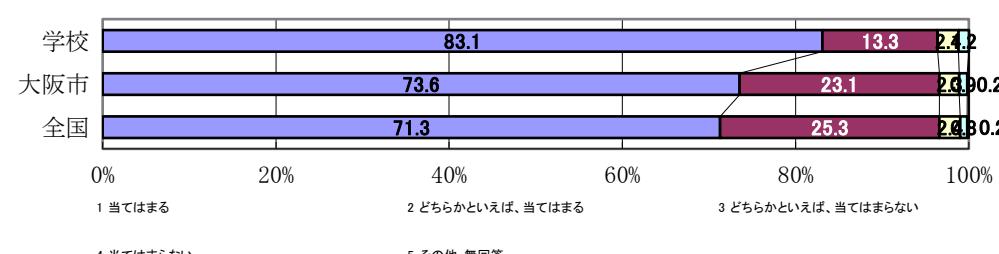
10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



## 令和7年度 玉出中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

### 学校質問より

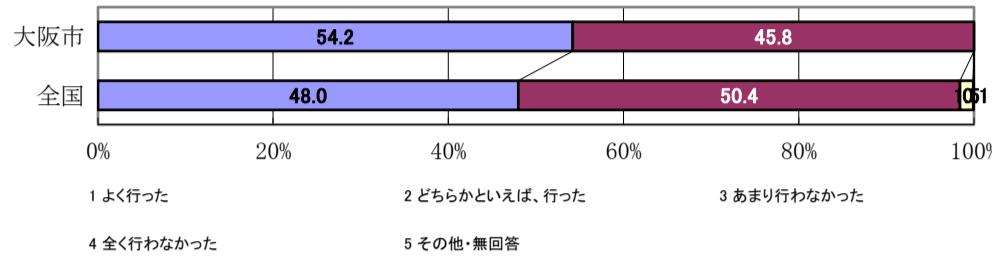
□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □9 □10

質問番号
質問事項

9

調査対象学年の生徒に対し、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

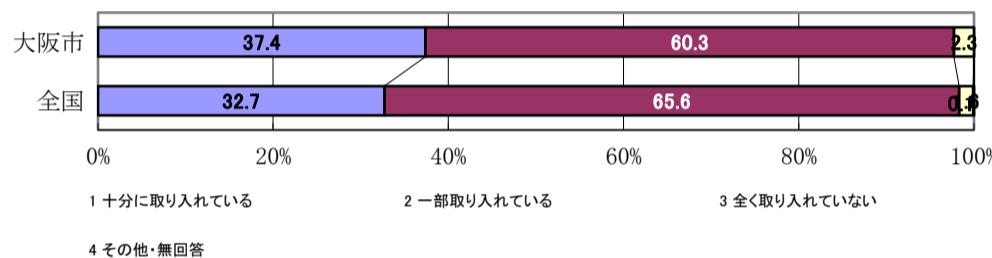
#### 学校 「どちらかといえば、行った」を選択



13

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

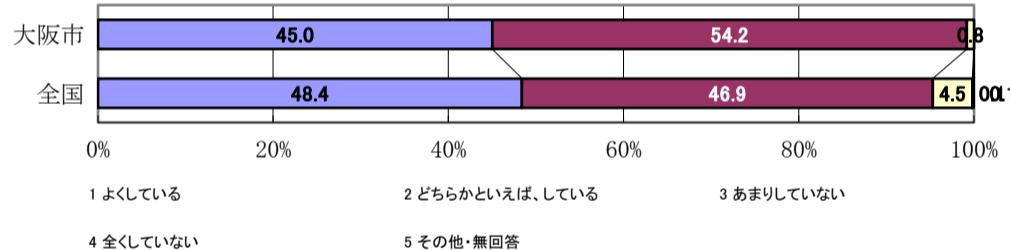
#### 学校 「十分に取り入れている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

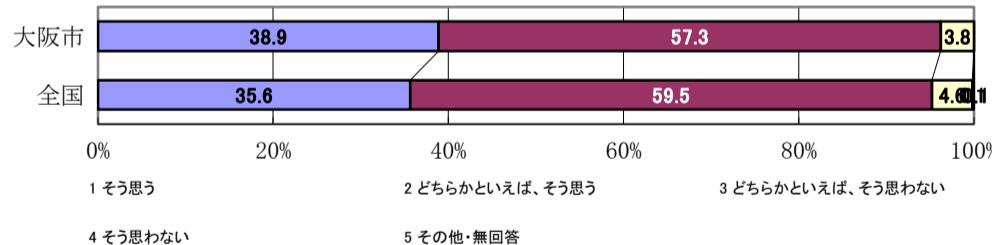
#### 学校 「どちらかといえば、している」を選択



28

調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考え方大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか

#### 学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



#### 学校 「」を選択

